

LESSON 35

最も実現可能性が高く、かつ効果が大きい施策は「申し送り業務の根本的な見直し（引き継ぎ記録の読み上げの廃止など）」です。

■ 効果が大きい根拠 現在、夜勤開始時の申し送りに毎回1時間から、長い時で1時間15分もかかっています。これを他院の事例のように15分程度へと大幅に短縮できれば、現在常態化している夜勤明けの2～3時間の残業を直接的に減らすことができます。スタッフの肉体的・精神的負担が軽減され、結果として患者さんへのケアの質向上につながるという非常に高い効果が期待できます。

■ 実現可能性が高い根拠 他の課題と比較して、予算や人員、システムの制限を受けずに現場の工夫だけで着手できるためです。

- ・ 電子カルテの二重作業: システム担当部署から「仕様です」と言われるシステムの壁があります。
- ・ 夜間対応の不安: スタッフの人数を増やせないという物理的な前提があります。
- ・ 薬剤管理のばらつき: 「自分のやり方でミスを防いでいる」と考えるスタッフもあり、統一が適切かどうかの専門的な判断が必要です。

これらに対し、申し送りの長時間化は「記録に書いてあることをそのまま読み上げている」という運用の問題が主な原因です。システム改修などを伴わず、情報共有のルールを変えるだけで実行可能です。

■ 実施にあたっての障壁 最大の障壁は「病棟内のこれまでの慣習や、先輩スタッフからの理解を得ること」です。提案者自身も「読めばいいのでは、と新人のころから思っていたが、先輩たちのやり方に合わせてきた」と述べており、長年定着している引き継ぎの文化を変えることへの心理的ハードルが存在します。ベテラン層を含めたチーム全体での合意形成が必要となります。

この内容を踏まえ、看護部長に提案しやすいような「申し送り時間短縮のための具体的な新ルール案」の叩き台を作成しましょうか？